

みんなであいっしょに! くにみ産業祭

11月8日・9日の二日間に上野台運動公園で、初めての「くにみ産業祭」が開催されました。昨年までは、伊達みらいの農業祭として開催されていましたが、今年からは農業に商工業も加わり「みんなであいっしょに!」くにみ産業祭」実行委員会が中心となり、準備を進めてきました。会場には約50のブースが展示し、来場者が舌鼓を打つ飲食ブースの他に、今回は町内企業のブースが設けられ、最新技術が紹介されました。また、国見町と親交のあ



る北海道ニセコ町のじゃがいも、乳製品、岐阜県池田町の美濃いび茶、大分県国東市のみかん、カボスなどが販売され、初日で売り切れてしまう商品もありました。来場した方からは「美味しいと聞いていても、なかなか産地には行けない。地元でいろいろな美味しいものを買えるのはいいこと」「今年の産業祭は人の出も多く、活気に満ち溢れている」「国見町に住んでいるけど、各企業が何を作っているのかわからなかったが、話を聞き、自分で見ても、初めて知ることができた」と話されていました。農作物の品評会に、出品された農作物はあつという間に買い手がつく出来ばえでした。



東京くにみ会

11月29日、東京平河町の「ルポール麹町」において、国見町に縁のある約250人が参加して東京くにみ会が開催されました。町では復興・再生に向け、地域経済を活性化させるため道の駅を整備し、さらに町民の絆を確かなものとするために歴史を活かしたまちづくりを進めています。小さな町だけでは難しく、町を応援していただける多くの

サポーターの存在が大切と考えています。このイベントは、人口1万人の小さな町が、東日本大震災や福島第一原発事故からの復興・再生を果たし、将来に向け歩み続けるために必要な「交流人口」の増加を目指して開催しました。くにみ会では、太田久雄町長のあいさつ、ご来賓の皆様さまのご祝辞をいただいた後、懇談が始まり、同郷の人々と新たな出会いの場となりました。くにみ会で出された料理の野菜は全て国見産の物が使われ、商店街の美味しい加工品も並べられました。

国見町が誕生してからの懐かしいスライドや26年度上半期のイベントダイジェストも放映され、アトラクションでは町無形民俗文化財に指定されている内容春日神社の太々神楽が披露されました。神楽舞のステージ前には多くの方が集まり見入っていました。今回の東京くにみ会は、町の現状を知っていたら、町に興味を持っていただくことを目的として開催しましたが、今後は、国見のサポーターとして応援していただく「ふるさと会」の立ち上げにつながるよう引き続き取り組んでいきたいと考えています。

